

沖縄戦を知って

沖縄県立沖縄高等特別支援学校一年 新里 優真

図書室で偶然、沖縄戦の本を手に取りました。まだ沖縄戦のことをよく知らなかった私は、「沖縄で戦争？自分の住むこの沖縄で？」と疑問に思いながら読み進めました。本を読み終えて、私は急に背筋が凍る感覚になりました。今、思えばその感覚は恐怖や悲しさ、悔しさだったかもしれませぬ。その日はずっと沖縄戦のことを考えていたのを今でも覚えています。

沖縄戦を知って、しばらく経ってから平和に関する見学イベントに参加しました。平和について私がじっくり考えた機会でした。会場を歩き回る中、一つの慰霊塔に目がとまりました。それが学徒隊の塔です。沖縄戦の本に書かれていた中に「中学生、高校生でも決戦に強制的に鉄血勤皇隊、学徒看護隊などの部隊に配置」という文字を思い出しました。私は学徒隊の塔に平和について問われているような気がしました。学校にも行けず、友達にも会えず、家族とも離ればなれ。まだやりたいことはたくさんあったはずなのに、戦争に行かないといけなかったことを思うと、心がぎゅっと痛くなりました。私はその立場だったらと考えると、すごく怖くもなりました。

今、当たり前前に学校に行き、友達と会い、家族と過ごしてい

る私の日常は当たり前じゃないのだと気付きました。平和についての答えは人それぞれだし、価値観はそれぞれ違うと思います。答えを出すのは簡単ではないです。でも、今の僕にとっての平和は日常の当たり前だと思っていたこと全てです。当たり前前の日常を大切に、平和が続くことを祈りながら過ごしていきたいです。